

全農香港事務所／全農インターナショナル香港株式会社

香港鶏卵市場拡大について

香港は、日本からの農畜産物の輸出先国・地域として16年連続首位(輸出額約2060億円)となるたいへん重要な地域です(農林水産省「2020年の農林水産物・食品の輸出実績」)。特に昨年は、日本酒をはじめアルコール飲料と鶏卵が輸出拡大に貢献。鶏卵は前年比で2倍以上の45億円となり、初めてトップテン入り(第9位)を果たしました(表)。

香港鶏卵市場について

鶏卵の日本人の1人あたり消費量が338個(2019年)で世界第2位の大消費国である事は有名ですが、香港も鶏卵消費は年々増加傾向にあり、単純推計すると年間約13.5万tのマーケットに成長しています(図)。国別では、タイ、中国、日本、米国、マレーシア・シンガポールが主要な鶏卵の輸入国であり、特に昨年から日本産の種類が増えたので約100SKU*が売り場獲得競争にしのぎを削っています。また香港マーケットでは、オーガニック卵やフリーケージ卵が棚全体の2割を占めており、高所得層等で意識の高い消費者がいる事が特徴的です(全農香港調べ)。

日本産鶏卵の輸出拡大の要因

ここまで爆発的に日本産鶏卵の輸出が伸びた理由は概ね3つと分析しています。

① 中国大陸品の輸入ストップ 中国大陸からの

え、米国への緊急オーダーも輸送に時間がかかる事から、その間に日本産が定着した。

以上のように、大きなマーケット転換は新型コロナウイルスに起因していると考えられます。日本産鶏卵は他外国産に比べて高価になりますが、日常生活としてやむを得ない状況で消費者の方に選択されたと思われる。

無視できないインバウンドの影響

今、このようなコロナ禍では以前の事を思い出すが、2019年まではLCCが多くなる地方空港と香港をダイレクトで結び、年間200万を超える香港人が日本へ旅行に訪れていました。

日本滞在中には、地域ごとのさまざまな食文化に触れて楽しめる中で、旅館の朝食で見かけた「たまごかけごはん」を不思議そうに眺めていた香港人も多くいました。今回の巣ごもりで、退屈しので試したら、その味に病みつきになった香港人がいるのも想像できます。

「たまごかけごはん」は一部の方が「TKG」という呼び方をしていますが、日本食レストランでは以前からメニューにありました。最近では地元系レストランでも食べる事ができるようになり、日本産たまごにフォーカスした飲食店も複数オープンするなど、まさに日本産たまごのブームに火がついた状況です(写真1)。

輸入品は、武漢などを中心とした湖北省エリア品が多かった事から、新型コロナウイルス感染症が流行した時期にかなり長期にストップした。

② 飲食店利用規制 コロナ禍で、店内飲食が全面禁止の時期も含めて、飲食店への規制が数カ月以上となった。外食文化の香港においても自宅で食べる事を余儀なくされ、結果的に量販店での鶏卵販売が伸びたのではないかと。

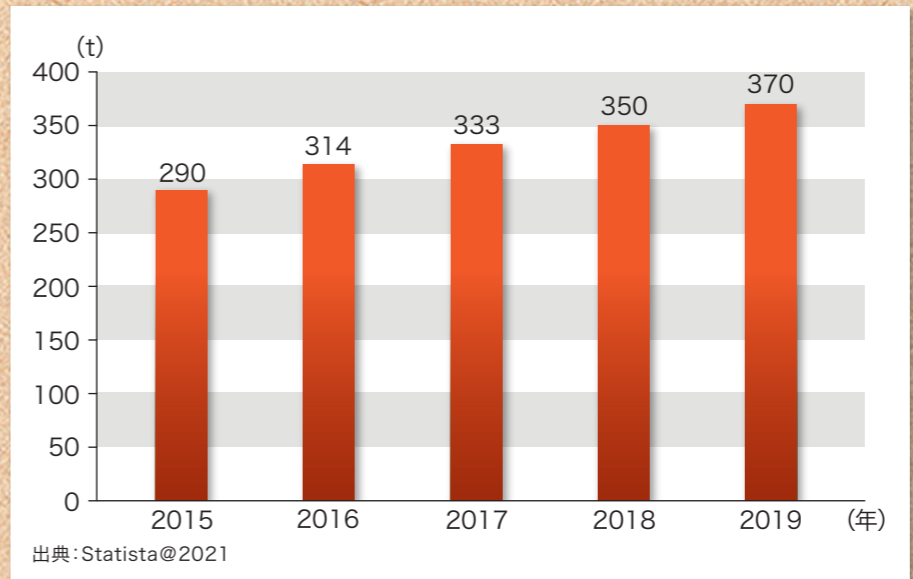
③ 供給可能国が日本のみ タイやマレーシアが自国優先政策で禁輸に近い形で輸出制限した事に加

表. 香港向け農林水産物・食品の輸出額(品目別内訳)

2020年	
1位	なまこ(調製)/154億円
2位	アルコール飲料/100億円
3位	たばこ/79億円
4位	貝柱(調製品)/58億円
5位	牛肉/54億円
6位	清涼飲料水/51億円
7位	菓子(米菓を除く)/50億円
8位	真珠(天然・養殖)/46億円
9位	鶏卵/45億円
10位	ソース混合調味料/35億円

出典:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成より抜粋

図. 香港における1日あたり卵消費量



啓蒙活動の重要性と今後

ただし、最近の「日本産鶏卵は安全だ」という過度な宣伝方法は危険ではないかと思っています。この日本産たまごブームに乗って鶏卵のSKUが増え、消費者の選択肢が増えた事は喜ばしいですが、必ずしも品質や安全性を順守した店ばかりではないのが現状だからです。例えば、安易に「生食OK」と説明があったり賞味期限が考えられないほど長期で表示してあるものなど、日本産の安全を脅かすような販売方法も見受けられます。

食ビジネスは信頼の積み上げです。特にこれから更にマーケット拡大していくためには、小売店や卸事業者並びに消費者に対する啓蒙活動が必要な時期と考えられます。弊社では、19年より一般財団法人日本養鶏協会のご協力をいただきながら、「日本産安全・安心」をより実感していただくよう「日本産鶏卵セミナー・勉強会」を香港公立中学校や一般消費者向けに開催しています。また、日本産鶏卵を特集した冊子を制作し、飲食雑誌の付録やフリー配布等を通じて、品質・安全性を含めた美味しさをPRしています(写真2)。

香港でも、コロナ禍でのライフスタイルの変化により、特に外食中心の食生活が変わり、テイクアウトやデリバリーサービスが増えました。更に「料理をする家庭」も増えてきています。家庭で調理する場合の素材選びには新鮮さや栄養面を外食よりも気にするのは、世界中同じです。

最近、鶏卵でも付加価値の高い銘柄の人気が上がっています。今後は、このような変化を的確にとらえた商品の投入が、他国と差別化した拡販につながるのではないかと考えています。

全農香港事務所／全農インターナショナル香港(株)は、全農香港事務所及び全農インターナショナル香港(株)は、2018年4月に香港、マカオ地域への日本産農畜産物の輸出の普及及び促進を目的として設立。21年4月にマカオ支店を設立し、深圳や広州を含む大湾区エリアへの日本産農畜産物の販売を強化していきます。

写真1. 日本産たまご専門店

「たまごかけごはん」は香港で「免疫力UP」「栄養がある」と評判(写真は日本産たまご専門店「Tamago-En」)。



写真2. 鶏卵学習会

日本養鶏協会のご協力をいただきながら、香港での日本産鶏卵の普及に取り組む「日本産鶏卵セミナー・勉強会」